

令和7年度

授業シラバス・
年間指導計画

地歴・公民
(2年)

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	---

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	- 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。 - 国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	- 考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 - 中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	- 原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 - 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	- 律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 - 律令体制の変容と摂関政治と国風文化についてその特徴を理解している。	- 律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。 - 国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	- 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 - 平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。

後期	第5章 院政と武士の躍進	貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	武士の台頭の景気や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。 武士の土地支配の持つ意味について多面的、多角的に考察し、表現している。	中世社会の特色について時代を遡る間を表現し、追究しようとしている。 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。
	第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長	諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	武家と公家の二元支配と両者に関わる文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。	宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	幕藩体制の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 戦乱のない時代が創出された意義を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	幕藩体制が確立する過程における様々な面について考察し、主体的に追究しようとしている。 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
	第10章 幕藩体制の動揺	幕府・諸藩の窮乏や百姓一揆などの史料から情報を読み取り、三大改革や田沼の諸政策の意義について理解している。 政治・経済と文化の関係などに着目して19世紀初期の経済や文化について理解している。	幕藩体制の動揺と文化の展開の関連について、諸資料から読み取れる情報をもとに考察し、表現している。 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について考察し、表現している。	幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や幕府・諸藩の政策の変化について、主体的に追究しようとしている。 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性についてつながりを見出そうとしている。
	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立	政治・経済の変化と思想への影響などに着目して幕藩体制の崩壊と新政権の成立と中央集権化について理解している。 諸資料をもとに自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定・議会開設にいたる過程を理解している。	日本が直面していた課題を踏まえ、幕末維新期の日本の課題を考察し、表現している。 藩制度の改革が地域社会にもたらした変化やヨーロッパ諸国との関係などについて考察し、表現している。	幕末の政治動乱の過程を考察し、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。
	第13章 近代国家の展開 第14章 近代の社会と生活	日清戦争から第一次世界大戦にいたる過程について諸資料をもとに理解している。 産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会においておきた社会問題について理解している。	大戦中の日本の動向を踏まえ、アジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたかを考察し、表現している。 都市の発達や生活の変化など地域社会の状況について多角的に考察し、表現している。	対外的な戦争が日本の近代化においてどのような意味をもったかについて考察し、追究しようとしている。 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することにより、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、恐慌と国際関係について理解している。 戦争の推移と国民生活の影響などに着目して、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。	満州事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などについて多角的・多面的に考察し、表現している。 戦争が拡大した理由について、日本における全体主義的な国家体制の進展について考察し根拠を示して表現している。	満州事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。 日中戦争から太平洋戦争にいたる過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。
	第16章 占領下の日本 第17章 高度経済成長の時代 第18章 激動する政界と日本	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化について史料から読み取り、サンフランシスコ平和条約調印による日本の主権回復の意義について理解している。 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目し、日本の経済成長や高度成長期の国民生活の変化について理解している。	戦後の諸改革が連合国の対日占領政策に基づくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ、実施されたことについて考察し、表現している。 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。	55年体制の歴史的意義や保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	日本史探究（日本史探究）	3	教科書『詳説 日本史』（日探705）山川出版社

学習のねらい	我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。 学習の到達目標 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
--------	--

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	- 旧石器文化・縄文文化・弥生文化の成立と変容を大陸との影響に着目して理解している。 - 国家の形成、古墳文化、推古天皇らの政権運営や飛鳥文化について、中国大陸・朝鮮半島との関連などに着目して理解している。	- 考古資料をもとにして、旧石器文化から弥生時代までの生活について考察し、表現している。 - 中国の歴史書や国内外の史料に基づいて日本と中国大陸や朝鮮半島との関係から、当時の日本の様子について考察し、表現している。	- 原始の各文化について、その特色を明らかにしようとしている。 - 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、古墳時代や推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開	- 律令体制の成立とその展開について、隋・唐など中国王朝との関係や文化の影響などに着目し、理解している。 - 律令体制の変容と摂関政治と園風文化についてその特徴を理解している。	- 律令体制に基づく土地制度や盛唐文化の影響を受けた天平文化について考察し、根拠を示して表現している。 - 国際関係の変化や浄土信仰などに着目し、平安時代の政治や文化について考察し、表現している。	- 平城京の造営と奈良時代の政治の動向に注目し、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。 - 平安時代の地方の動向が政治や社会に与えた影響を明らかにしようとしている。
後期	第5章 院政と武士の躍進	- 貴族社会や土地制度の変容などをもとに、諸資料を調べ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 - 諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。	- 武士の台頭の景気や土地制度の仕組みを考察し、古代から中世への時代の転換について、根拠を示して表現している。 - 武士の土地支配の持つ意味について多面的、多角的に考察し、表現している。	- 中世社会の特色について時代を通観する問を表現し、追究しようとしている。 - 古代との比較などを通して、中世の特色を追究しようとしている。
	第6章 武家政権の成立 第7章 武家政権の成長	- 諸資料から鎌倉幕府と室町幕府の特徴やその時代の文化について理解している。 - 庶民の活動や庶民の文化について文化の地方伝播や戦国大名の登場などを関連付けて理解している。	- 武家と公家の二元支配と両者に関わる文化の特徴について考察し、根拠を示して表現している。 - 戦国大名による富国強兵策に着目して、領国統治の特色について諸資料から考察し、表現している。	- 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。 - 室町時代に成立した村の自治的運営が現代社会における自治とどのように異なるかを主体的に追究しようとしている。
	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開	- 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 - 都市の発達と文化の担い手に注目して、17世紀の文化と特徴などについて、史料を読み取り、理解している。	- 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて、多角的・多面的に考察し、表現している。 - 戦乱のない時代が創出された意義を踏まえ人々の意識がどのように変化したのかを考察し、表現している。	- 幕藩体制が確立する過程における様々な過期について考察し、主体的に追究しようとしている。 - 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名(校内名称)	単位数	教材
地理・歴史科	世界史探究(世界史探究)	3	教科書『詳説 世界史』(世探701)山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 Ⅰ 学習の到達目標 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像(資質・能力)との関連	- 概念や理論について理解する力 - 情報を適切かつ効果的にまとめる力	- 多面的・多角的に考察し、判断する力 - 構想したことを議論したり表現する力	- 課題解決力 - 粘り強く取り組む力 - 自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章文明の成立と古代文明の特質	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的な特質を理解している。	・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現している	「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第2章中央ユーラシアと東アジア世界 第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開	・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的な特質を理解している。	・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係、南アジアにおける宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

	第4章西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的な特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特質などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章ヨーロッパ世界の変容と展開	・西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「イスラーム世界の拡大と繁栄」や「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章大交易・大交流の時代	・宋の社会とモンゴル帝国拡大、アジア海域での交易興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりとヨーロッパの進出を構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特質やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の特質、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特質とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「中華世界の変容とモンゴル帝国」と「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第10章アジアの諸帝国 第11章近世ヨーロッパ世界の動向	・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特質、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特質や宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的進歩の特質、主権国家の特質と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「ユーラシア諸帝国の繁栄」や「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
後期	第12章産業革命と環大西洋革命 第13章イギリスの優位と欧米国民国家の形成	・産業革命と環大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成や国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革を構造的に理解している。	・大西洋沿岸諸地域の動向や世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、産業革命や環大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特質、南北アメリカ大陸の変容や、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特質、アジア諸国の変容の地域的な特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「国民国家と近代社会の形成」や「世界市場の形成とアジア諸国の変容」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第14章アジア諸地域の動向 第15章帝国主義とアジアの民族運動	・第二次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変容などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。	・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特質などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第16章第一次世界大戦と世界の変容 第17章第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムや、世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動向などを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。	・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向と世界恐慌と国際協調体制の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の性格、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの性格や、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特質、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「第一次世界大戦の展開と諸地域の変容」や「国際協調体制の動向と第二次世界大戦」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
	第18章冷戦と第三世界の台頭 第19章冷戦の終結と今日の世界	・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、先進国の経済成長と南北問題、原子力の利用などを基に、紛争解決の取り組みと課題、格差の是正の取り組みと課題、知識基盤社会の展開と課題を理解している。	・国際機構の形成と紛争、国際競争の展開と経済格差、科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、国際連盟と国際連合との共通点と相違点、先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・「冷戦の世界化と国際制度」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。 ・「冷戦の変容・終結と経済のグローバル化」の内容に対して、見直しをもって学習に取り組もうとしている。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理・歴史科	世界史探究（世界史探究）	3	教科書『詳説 世界史』（世探701）山川出版社

学習のねらい	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 Ⅰ 学習の到達目標 ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態・アドバイス等	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
-------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む
前期	第1章文明の成立と古代文明の特質	・オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的な特質を理解している。	・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「古代文明の出現」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第2章中央ユーラシアと東アジア世界 第3章南アジア世界と東南アジア世界の展開	・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアの諸国家などを基に、東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史的な特質を理解している。	・東アジアと中央ユーラシア、南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特色と周辺諸地域との関係、南アジアにおける宗教や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「東アジアと中央ユーラシア」と「南アジア」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第4章西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成などを基に、西アジアと地中海周辺の歴史的な特質を理解している。	・西アジアと地中海周辺の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、西アジアと地中海周辺の諸国家の社会や文化の特色、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「西アジアと地中海周辺」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第6章イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章ヨーロッパ世界の変容と展開	・西アジア社会の動向とイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因やヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「イスラーム世界の拡大と繁栄」や「中世ヨーロッパ」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
後期	第8章東アジア世界の展開とモンゴル帝国 第9章大交易・大交流の時代	・宋の社会とモンゴル帝国の拡大、アジア海域での交易興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりとヨーロッパの進出を構造的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、中国社会の特色やモンゴル帝国が果たした役割やアジア海域での交易の特色、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特色とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「中華世界の変容とモンゴル帝国」と「大交易時代と世界の一体化」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	第10章アジアの諸帝国の繁栄 第11章近世ヨーロッパ世界の動向	・西アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向や宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想を基に、アジア諸地域の特質や主権国家体制形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。	・アジア諸地域やヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、諸帝国の統治の特色、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特色や宗教改革の意義、大西洋沿岸諸地域の経済的発展の特色、主権国家の特色と経済活動との関連、ヨーロッパ社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現している。	「ユーラシア諸帝国の繁栄」や「主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大」の内容に対して、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	備考			

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	2	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2025（とうほう） データブックオブザワールド 2025（二宮書店） 地理用語集（山川出版）

学習のねらい	地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	--

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間の相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを持つことができる。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特微的な小地形	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。	地形について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	2 節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現における課題を主体的に追究しようとしている。
	3 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。	日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	さまざまな地球環境問題の原因や解決についての取り組みを理解している。	地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自身のできることを考えることができる。	持続可能な社会に向けての課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。
後期	1 節 農林水産業 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業	世界の農林水産業の現状について、自然環境とどのように関わっているかについて理解している。	農林水産業の分布についての背景を考察することができる。	持続可能な農林水産業のあり方について、課題を主体的に追究しようとしている。
	2 節 食料問題 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題	食料の分配の世界的な偏りや、飢餓や貧困の原因について理解している。	世界の食料問題の原因や背景について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。	飢餓の解決において必要な取り組みを調べたり、発表したりすることができる。
	3 節 エネルギー・鉱産資源 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用	世界のエネルギー・鉱産資源の分布の偏りや、生産や消費の不均衡をなくすためにどのようなことが行われているかについて理解している。	エネルギーや電力についての課題を考察することができる。	持続可能な社会に向けて、今後のエネルギーや電力のあり方について探究しようとしている。
	4 節 資源・エネルギー問題 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題について、社会的背景をもとに理解している。	資源・エネルギー問題について持続可能な社会の構築のために必要なことを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会の実現を視野にそとでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	5 節 工業 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業	工業はどのように発展し、現在ではどのような分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。	グローバルな視点に立ち、今後の工業の発展にはどのような取り組みが必要かを考察し、表現することができる。	持続可能な社会の構築において、今後の工業のあり方について主体的に追究しようとしている。
	備考			

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地歴	地理総合	1	・「高等学校 地理総合―世界を学び、地域をつくる」（第一学習社） ・「新詳高等地図」（帝国書院） ・コネクト 地理総合（第一学習社） ・地理総合ノート（第一学習社）

学習のねらい	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。
--------	---

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業です。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。定期的に課題を提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	---

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にしらべまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。
育てたい生徒像 （資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざして追究する力。	広い視野に立ち、世界の諸地域の課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な 評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	2章 地球的課題と国際協力 ①持続可能な開発目標(SDGs)②地球的課題の地理的な側面③貧困問題④人口問題⑤食料問題⑥持続可能な水の利用⑦健康・福祉問題⑧教育・ジェンダー問題⑨技術革新と持続可能な産業化⑩限りある資源⑪エネルギー問題⑫都市・居住問題⑬地球温暖化問題⑭陸地の環境問題⑮海洋の環境問題	・持続可能な開発目標(SDGs)の考え方を学び、地理で学習する地球的課題が教科をこえた探究的な課題につながることを理解する。 ・人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。	・SDGsの達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学び、消費者としての取組を通して、自らの行動を見直すことができる。	・各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合うことができる。
	3章 持続可能な地域づくりと私たち①地球規模で見る地形の姿と自然災害②人々の暮らしを取りまく自然環境③変動帯の自然と防災④温帯地域の自然と防災⑤私たちができる災害への備え⑦地域調査の方法	・世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。 ・地域調査について、積極的な調査を実施できるよう、地域調査の必要性を理解し、地域調査の基本を身につける。	・自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。	・自然災害に備えるためには、ハザードマップや緊急地震速報の有用性を認識するとともに、災害に強い地形や環境について理解し、災害に見舞われた際になるべく被害を減らせる(減災)できるよう、地域防災力を高めるために個人ができることを積極的に話し合うことができる。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
地理歴史	地理探究	1	新詳 地理探究（帝国書院） 新詳 高等地図（帝国書院） 新編 地理資料 2025（とうほう） データブックオブザワールド 2024（二宮書店） 地理用語集 （山川出版）

学習のねらい	地理総合の学習によって身につけた資質・能力をもとに、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
--------	--

授業形態 アドバイス など	授業形態は、各クラスでの一斉授業となります。適宜、グループ学習やペアワークを取り入れていきます。積極的に参加することで思考力や表現力を養いましょう。定期的に課題も提出してもらいます。年に5回定期考査を実施する予定です。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。さらに、それらをもとに議論したりすることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを持つことができる。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力。	社会的事象について、地理的な見方や考え方を働かせ、多面的・多角的に考察したり自らの考えを表現したりする力。	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会において、世界の諸地域の課題を追及したり解決したりする活動に主体的に取り組む力。
主な評価方法	定期考査 観察 ペアワーク	定期考査 レポート 発表	ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	1 節 地形 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 2 節 気候 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。	地球規模の大地形や小地形などのさまざまな地形の成因や、人間活動とどのように関わっているかについて考察することができる。	地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
		気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。	気温や降水量、風などを要素とする気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	気候について、気候変動や異常気象の原因について理解し、その対策やよりよい社会の実現における課題を主体的に追究しようとしている。
後期	3 節 日本の自然環境 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	日本列島の地形や気候など多様な自然環境の特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて理解している。	日本の地理的環境が自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	日本の自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。
	4 節 地球環境問題 1 地球環境問題とは 2 さまざまな地球環境問題 3 地球環境問題の解決に向けた取り組み	さまざまな地球環境問題の原因や解決についての取り組みを理解している。	地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すために自身のできることを考えることができる。	持続可能な社会に向けての課題について図書館やインターネットで調べたり、グループで話し合ったりできる。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 普通科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民科	公共	2	教科書：『新版 公共』〔数研出版〕

学習のねらい	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態 アドバイス など	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
育てたい生徒像（資質・能力）との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。	・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができる。	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を検証し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。	・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。	・選択・判断の手がかりとなる考え方をを使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原理や憲法で保障されている権利を理解している。	・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。	・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。	・行政機能の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てている。	・模擬裁判や模擬投票の実施により裁判や選挙を身近に捉え積極的に参画する自覚を持つことができる。 ・主権者として参加しようという意欲を持つことができる。
後期	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。	・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。	・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。
	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。	・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発展途上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。	・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題探究の観点 ・課題探究の手引き	・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解している。	・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。	・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができる。
備考				

令和7年度 岡山県立倉敷天城高等学校 理数科2年 シラバス

教科名	科目名（校内名称）	単位数	教 材
公民科	公共	2	教科書：『新版 公共』〔数研出版〕

学習のねらい	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--------	--

授業形態 アドバイス など	各クラスで行う一斉授業です。適宜グループ学習やペアワークを取り入れて行います。予習として、必ず教科書を読んで、授業に参加してください。定期的に課題を提出してもらいます。
---------------------	--

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の基本的な考え方	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
育てたい生徒像 (資質・能力) との関連	・概念や理論について理解する力 ・情報を適切かつ効果的にまとめる力	・多面的・多角的に考察し、判断する力 ・構想したことを議論したり表現する力	・課題解決力 ・粘り強く取り組む力 ・自らの学習を調整する力
主な評価方法	定期考査 課題 観察 ペアワーク等	定期考査 レポート 発表	課題の取組状況 ノートやレポートの記述 授業中の発言 生徒の自己評価と相互評価

学期	学習内容	学習の到達目標		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚 第3節 日本人としての自覚	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解している。 ・古代ギリシアや中国・日本の思想家の思想内容、三大宗教の内容を理解している。	・自己形成の課題について考察することができる。 ・先哲の思想や宗教・文化が自分自身の生き方に与えている影響に気づくことができる。	・よりよく生きることについての自覚を深められている。 ・自分自身の生き方を検証し、自らにできることを主体的に追究しようとしている。
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想 第2節 現代の諸課題と倫理	・西洋近現代の思想家の思想内容を理解している。 ・地球環境問題など現代の諸課題について理解している。	・公共的な空間における人間としてのあり方生き方を考察するための選択・判断の手がかりが考察できている。	・選択・判断の手がかりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究しようとしている。
	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理 第2節 日本社会の基本原理	・民主政治のあり方を理解している。 ・日本国憲法の三大原理や憲法で保障されている権利を理解している。	・国家と個人のあり方を考察することができる。 ・国際情勢の変化にともない、日本の平和主義のあり方がどう変化していったのかを考察することができる。	・民主政治と自らの生活との関わりについて理解し、主体的に生きる人間のあり方生き方について深く考えようとしている。
	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	・日本国憲法にみられる三権相互の関係と役割を理解している。 ・選挙のしくみ、政党の役割、地方自治の現状と課題などを理解している。	・行政機能の拡大の是非について主体的に考察することができる。 ・日本の政治について課題を発見し、解決する見通しが持てている。	・模擬裁判や模擬投票の実施により裁判や選挙を身近に捉え積極的に参画する自覚を持つことができる。 ・主権者として参加しようという意欲を持つことができる。
後期	第5章 現代の経済社会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融 第3節 日本経済の発展と変化 第4節 豊かな生活と福祉の実現	・市場経済のメカニズムと企業の果たす役割を理解している。 ・金融・財政の仕組みを理解している。 ・戦後日本のあり方が理解できている。 ・私法・契約の原則、労働問題や社会保障について理解している。	・需要・供給曲線を使って、価格変動について考察できる。 ・不況や好況など景気の先行きが判断でき、自ら経済の動向を予測できる。 ・現代経済の諸問題について、解決の方法を考察することができる。	・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。 ・雇用・労働問題や社会保障・福祉の課題について主体的に追究しようとしている。
	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向 第2節 国際政治の課題と日本の役割 第3節 国際経済の動向と国際協力	・国際連合などの組織と役割を理解している。 ・冷戦の成立と終結後の国際政治の流れを理解している。 ・戦後の国際経済の流れを理解している。	・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できる。 ・発展途上国の現状を知り、自らがどのようなことができるかを考えることができる。	・国際社会のなかで戦後日本のあり方を考察し、将来の展望を持つことができる。 ・国際社会の課題について主体的に追究しようとしている。
	持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・課題探究の観点 ・課題探究の手引き	・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などを理解している。	・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。	・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。
備考				